（第３種郵便物認可）　山陰中央新報　2007 10/19. 24面　山陰日

# 中小企業若手が意見交換

## 江津で全国シンポ　地域産業活性化探る

全国の中小企業の社員らが、地域産業の活性化策を探る「全国若手ものづくりシンポジウム」が十八日、二日間の日程で江津市で始まった。初日はパネルディスカッションなどがあり、参加した山形県の関係者は地元の工業高校と地域が連携を深め、若者の定住や企業の技術力向上を図っている事例を報告。人材流出の進む島根県の関係者らは、他県の取り組みに熱心に耳を傾けた。

シンポは中小企業が集積する地域間交流の促進を目的に、二年前にスタート。今回は江津市や江津商工会議所などが主催し、約三百人が参加した。

「産業校と中小企業の連携による人材育成」をテーマにしたパネルディスカッションでは、山形県長井市の長井工高の山科尚史教諭が現状を報告。卒業生のうち、就職する約九割は県内企業に就いている状況について、「技術を地元に還元する取り組みを進めている。地域における自分の役割を、生徒に認識させることが重要」と説明した。

また、長井市の企業経営者は企業の従業員が高校生を指導するなど、学校と地場企業とが積極的に連携しているケースを紹介した。

シンポで基調講演した島根県の新産業創造プレインで、一橋大大学院の関満博教授は「長井市と江津市は人口規模も似ている。江津市でも新たな流れをつくってほしい」とエールを送った。

十九日は、石州瓦メーカーや石見銀山遺跡の視察が予定されている。

学校と地域企業の連携について意見を述べるパネルディスカッションの参加者＝江津市嘉久志町、地場産業振興センター